ジャンヌ・ダルク裁判（1962）

PROCES DE JEANNE D'ARC
THE TRIAL OF JOAN OF ARC

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 65分
初公開日 1969/11/29
公開情報 ＡＴＧ

【解説】

撮影にイル・ド・フランスのムードン城の庭、及び地下室を利用し製作された、ジャンヌ・ダルクの裁判とその焚刑にのみ焦点を絞った、ブレッソンのストイシズムに貫かれた映像が怖いくらいの作品だ。敬虔なカトリック教徒として知られる彼のジャンヌ像は、カール・ドライエル（「裁かるゝジャンヌ」）やジャック・リヴェット（’９４年の「ジャンヌ／愛と自由の天使」「ジャンヌ／薔薇の十字架」）のより人間的なそれより、幾分純化されすぎのきらいがある。もちろん、死の恐怖に脅える乙女の姿を描きはするが、それは地下牢の壁の割れ目から盗み見される光景としてだ。そこからジャンヌを火刑台に追いやったものに対する、ブレッソンの醒めた眼が感じられる。しかし最後、いよいよ十字架上の人となる少女がそこへ追い立てられよろめくさまを、狭い歩幅で歩く裸の足のみを追って表現する所、執行後の燃えつきた十字架、それを呆然と見つめる僧侶たち、近くを停まってはまた飛び立つ二羽の鳩を仰角で捉えるショットを積み重ねるラストの厳かさには胸をうたれる。

【クレジット】

監督 ロベール・ブレッソン Robert Bresson
脚本 ロベール・ブレッソン Robert Bresson
撮影 レオンス＝アンリ・ビュレル Leonce-Henri Burel
音楽 フランシス・セイリグ
出演 フロランス・カレ
ジャン＝クロード・フルノー
ロジェ・オーラ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.